

教科名	国語	科目名	現代の国語	必修					
科別	商業	科学年	1年	コース名	全	コース	2	単位	文理共通
教科書（発行所）	現代の国語(大修館書店)								
副教材（発行所）	力をつける現代文ステップ1、常用漢字クリア(尚文出版)、小論文チャレンジノートVol1・2(第一学習社)								

学 習 目 標		国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
観 点 別 評 価	知 識・技 能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。
	思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
留 意 事 項		単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	1 明日をひらく 「白紙」 「伝える、伝え合う」	- 言葉やコミュニケーションの基礎を知り、学びに向かう姿勢をつくる。 - 相手や目的に応じた語句や文体の使い方を身につける。	年間通して適宜小テストや課題を行う。
	5	2 要点をつかむ 「水の東西」(読む) 3 的確に伝える 「伝わるように話す」(話す・聞く) 4 意見を示す 「発想を広げる」(話す・聞く) 「意見を書く」(書く)	- 叙述を的確にとらえ、具体と抽象を理解する。 - 文章の要点をまとめる。 - 話し言葉の特徴を知り、聞き手が理解しやすい説明の仕方を考える。 - 相手に的確に伝える書き方を身につける。	
	6		- 他者と意見を交流し、アイデアを出し合い整理する。 - 構成や展開を意識して文章を書く。 - 根拠を明確にして、自分の意見を書く。	
	7	5 論理をとらえる 「動的平衡としての生物多様性」(読む)	- 主張と根拠、理由づけの関係をとらえる。 - 演繹、帰納に着目し、文章の論理をとらえる。	夏季課題学習
	9	6 魅力的に伝える 「工夫して話す」(話す・聞く) 「魅力的な紹介文を書く」(書く)	- 相手の興味を惹くように、構成や展開の工夫を学ぶ。声の強弱や話す速度などを意識する。 - さまざまな表現上の工夫を知り、読み手が共感できるような文章を学ぶ。	夏季課題提出
第 2 学 期	10	7 資料を駆使する 『「安くておいしい国」の限界』(読む) 「統計資料をもとに意見を書く」(書く)	- 資料と文章の関係に注意して情報を読み取る。 - 統計資料を正確に読み取り、情報を組み合わせたり比較したりして、自分の主張を書く。	
	11	8 他者と交流する 「目的に沿った質問をする」(話す・聞く) 「状況に応じた通信文を書く」(書く)	- 質問の目的を明確にし、知りたいことへの理解を深める。 - 通信文の基本的なルールを知る。 - 相手や場面に応じた通信文を書く。	
	12	9 情報を比較する 『「美しさの発見」について』(読む)	複数の文章を比較し、共通点や相違点をとらえる。	冬季課題学習
第 3 学 期	1	10 他者を動かす 「説得力のある資料をつくる」(書く) 「資料を用いて発表する」(話す・聞く)	- 提案を検討する際に必要な要素を押さえる。 - 効果的な表現や資料の提示の工夫を学ぶ。 - 資料に基づいて、聴き手の心を動かす話し方を工夫しながら発表する。	冬季課題提出
	2	11 主張を吟味する 「贅沢を取り戻す」(読む) 「文章を読み取って主張を書く」 「討論をする」(話す・聞く)	- 文章中の根拠や引用に注目し、その妥当性や信頼性を吟味する。 - 他者の主張をふまえて、自分の考えを書く。 - 司会者、参加者それぞれの役割を理解するとともに、論理展開や表現を意識しながら自分の意見を述べ、相手の話を評価する。	
	3	12 考えを発信する 「白」(読む) 「結論を出すために話し合う」(話す・聞く) 「レポートを書く」(書く)	- 目的に即して必要な情報を読み取る。 - 異なる意見を持つ人同士が話し合い、結論の出し方を学ぶ。 - 適切な情報を集め、問いを立てる。 - 調べたことを根拠として、問いを解決するレポートを書く。	春季課題学習

進捗状況やコースによって学習内容を変更する可能性があります。

教科名	国語		科目名	言語文化			必修	
科別	商業	科学年	1年	コース名	全	コース	2単位	文理共通
教科書（発行所）		言語文化(大修館書店)						
副教材（発行所）		基礎から学ぶ解析古典文法(桐原書店)、基礎から学ぶ解析古典文法演習ノート(桐原書店)、読んで見て覚える重要古文単語315(桐原書店)						

学 習 目 標		言語文化に対する理解を深めつつ、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高めながら自分の思いや考えを深めたり広げたりするとともに、読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
観 点 別 評 価	知 識・技 能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。
	思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
留 意 事 項		単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	1 言語文化への視点 「世界を見わたす窓」 2 言葉の紡ぐ世界 「羅生門」	・言語と文化の関係について、筆者の考えを読み取る。 ・場面ごとの人物の心情変化を読み取る。	
	5	3 伝統と発展 「実体の美と状況の美」 「短歌 十二首」 「俳句 十五句」	・美についての筆者の考えを読み取る。 ・短歌や俳句に親しみ、表現の特徴を理解する。 ・作品にうたわれている情景や心情を読み味わう。	中間考査
	6	4 表現の多様性 「夢十夜」 5 日本と世界 「外国語の不思議 日本語の不思議」 6 文学と人生 探究「災害の記録」	・作品の表現に着目しながら読み味わう。 ・日本語と外国語の特徴を捉え、日本語を相対化し見つめ直す視点を養う。 ・異なる時代に書かれた記録文を読み、災害が人々に及ぼした影響について考える。	期末考査 夏季課題学習
	7			
第 2 学 期	9	1 古文に親しむ 「宇治拾遺物語」 2 自然へのまなざし 「徒然草」「枕草子」	・古文の仮名遣いや、特有の言い回しに慣れる。物語の展開を捉える。 ・自然の情景に対する作者の感覚を捉える。	夏季課題提出
	10	3 想いを表す言葉(一) 「恋するころ」 「四季の移ろい」 「旅と別れ」	・和歌の印象的な部分について考える。 ・和歌の修辞を学ぶ。 ・自分の感じたことを言葉にする。	中間考査
	11	4 人との交わり 「伊勢物語」 「源氏物語への招待」	・物語の内容を理解し、読み味わう。 ・和歌の修辞を学ぶ。 ・『源氏物語』の概要を知り、他の作品に与えた影響について考える。	
	12	5 語り継がれる歴史 「平家物語」	・特徴的な文体のリズムを味わう。 ・物語の内容を理解し、読み味わう。 ・登場人物の会話や行動を整理し、どのように描かれているか読み取る。	期末考査 冬季課題学習
第 3 学 期	1	6 旅と人生 「土佐日記」「更級日記」 1 漢文に親しむ 「私たちと漢文」「論語」	・旅に出るまでのならわしや、旅立ちに際しての思いを読み取る。 ・日記の形態や書き手の設定に着目し、その効果について考える。 ・漢文に親しむ。	冬季課題提出
	2	2 現代に生きる言葉 「蛇足」「完璧」 3 想いを表す言葉(二) 漢詩	・漢文訓読のきまりを知り、この話から生まれた言葉への理解を深める。 ・漢詩の形式や詩の特徴を理解し、読み味わいながら表現の工夫を読み取る。	
	3	4 文学と社会 「雑説」	・論理の展開を読み取る。 ・作者の主張を読み取る。	学年末考査 春季課題学習

進捗状況やコースによって学習内容を変更する可能性があります。

教科名	地歴公民	科目名	地理総合	必修					
科別	商業	科学年	1年	コース名	全	コース	2	単位	文理共通
教科書（発行所）	地理総合(東京書籍)								
副教材（発行所）	地理総合ワークノート(東京書籍)								

学 習 目 標		必修科目として、高等学校の地理をこの科目だけで終える生徒および引き続き地理探究を履修する生徒の両方に配慮した学習内容を構成し、すべての生徒の地理的に考える資質・能力の基礎を培う。
観 点 別 評 価	知 識・技 能	地理的諸事象について、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的にまとめる技能などを各学期の定期考査、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現	地理的事象の意味や意義、特色や関連性を、位置や分布、人間と自然環境との相互依存関係や地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、表現したりすることができるかを定期考査の記述問題の解法や課題等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて主体的に追究し、地理的事象を多面的・多角的にな考察や深い理解に基づき判断しようとしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組み、ノートや課題等で評価する。
留 意 事 項		単元別の小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 第1章 私たちが暮らす世界 第2章 地図や地理情報システムの役割	緯度・経度、地球儀と世界地図、日本の位置と領域 [発展]適切な地図を選ぶ 地図の種類、地形図ルール、主題図の種類と読取、地理情報システムと地図	【GW探究課題】
	5	第3章 資料から読み取る現代世界	[発展]地形図を読み取る。WebGISを使ってみよう。 交通の発達、情報通信の発達、国境を超える人々の移動、拡大する貿易、つながる世界・多極化する世界 [発展]グラフを読み取ろう、統計地図を読み取ろう、階級区分図を作ろう	中間考査
	6	第2編 国際理解と国際協力 第1章 人々の生活文化と多様な地球的環境 1節 生活文化の多様性と国際理解 2節 生活文化と自然環境①地形	文化の地域性と多様性、宗教と人々の暮らし、山地の暮らし、平野の暮らし、海岸の暮らし	
	7	3節 生活文化と自然環境②気候	多様な気候とその分布、熱帯の人々の暮らし、乾燥帯の人々の暮らし、温帯の人々の暮らし、亜寒帯・寒帯の人々の暮らし [発展]雨温図を読み取ろう	期末考査
第 2 学 期	9	4節 生活文化と産業	食生活と農業の分布、工業立地の変化、商業立地と人々の生活、情報産業の発達と生活文化の変化	【夏季探究課題】 提出
	10	第2章 様々な地球的課題と国際協力 1節 地球環境問題 2節 資源・エネルギー問題	地球環境問題(1)、地球環境問題(2)、資源・エネルギーの偏在、化石燃料から再生可能エネルギーへ	中間考査
	11	3節 人口問題 4節 食料問題 5節 居住・都市問題	発展途上国の人口問題、先進国の人口問題、食糧需給をめぐる問題、発展途上国の居住・都市問題、先進国の居住・都市問題 [発展]人口ピラミッドを読み取ろう	
	12	6節 民族問題 7節 持続可能な社会の実現をめざして	民族問題・難民問題、地球的課題と国際協力 [発展]民族問題、持続可能な社会	期末考査
第 3 学 期	1	第3編 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境の特色	日本の地形の特色、日本の気候の特色	【冬季探究課題】 提出
	2	2節 様々な自然災害と防災	地震災害・津波災害(1)、地震災害・津波災害(2)、火山の災害とめぐみ、気象災害(1)寒さ・暑さと台風、気象災害(2)大雨と洪水・土砂災害、都市と自然災害、防災・減災と復旧・復興 [発展]ハザードマップを読み取ろう	
	3	第2章 生活圏の調査と地域の展望	調査テーマの設定①、地域調査1(資料調査)、地域調査2(野外調査)、まとめと発表	学年末考査

教科名	数 学	科目名	数 学 I	必修					
科 別	商 業	科 学 年	1 年	コース名	全	コース	2	単位	
教 科 書（発行所）		最新 数学 I（数研出版）							
副 教 材（発行所）		パラレルノート 数学 I（数研出版）							

学 習 目 標		必修科目として、高等学校の数学をこの科目だけで終える生徒および引き続き数学を履修するする生徒の両方に配慮した学習内容を構成し、すべての生徒の数学的に考える資質・能力の基礎を培う。
観 点 別 評 価	知 識・技 能	数学用語・記号の理解、公式の理解、基本的な概念の理解、計算の技能などを各学期の定期考査、授業中の演習問題への取り組み、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた数学の知識や技能を効率よく活用して問題を解決し、さらに自分の考えを説明(表現)することができるかを定期考査の記述問題の解法や課題等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、数学的論拠に基づき判断しようしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留 意 事 項		単元別的小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1章 数と式 第1節 式の計算	1、多項式 2、多項式の加法・減法・乗法 3、展開の公式	
	5		4、式の展開の工夫 5、因数分解 6、いろいろな因数分解	中間考査
	6	第2節 実数	7、実数 8、根号を含む式の計算	
	7	第3節 1次不等式	9、不等式 10、不等式の性質	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9		11、1次不等式の解き方 12、連立不等式 13、不等式の利用	夏季課題提出 確認テスト
	10	第2章 集合と命題	1、集合と部分集合 2、共通部分、和集合、補集合 3、命題と集合	中間考査
	11	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ	4、命題と証明 1、関数 2、関数とグラフ 3、 $y = ax^2$ のグラフ	
	12		4、 $y = ax^2+q$ のグラフ 5、 $y = a(x - p)^2$ のグラフ	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1		6、 $y = a(x - p)^2$ のグラフ 7、 $y = a(x - p)^2+q$ のグラフ 8、 $y = ax^2 + bx + c$ のグラフ	
	2		8、2次関数の最大・最小 9、2次関数の決定	学年末考査 課題学習
	3			

教科名	理 科	科目名	科 学 と 人 間 生 活	必修				
科 別	商 業	科 学 年	1 年	コース名		コース	2 単位	文理共通
教 科 書（発行所）	科学と人間生活（東京書籍）							
副 教 材（発行所）	なし							

学 習 目 標		自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割や貢献について、身近な事物・現象に関連させて理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高め、これからの科学と人間生活とのかかわり方について考察させる。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。
	主体的に学習に取り組む態度	身近な事物・現象に関心や探究心を持ち、科学的な視点・考察力を養うとともに、科学技術に対する関心を高める態度を身につけている。
留 意 事 項		科学技術の発展の人間生活への貢献、身近な事物・現象を通しての現代の人間生活と科学技術の関連性についての知識を身につけ、これからの科学技術と人間生活のあり方について理解する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学期	4	2編 物質の科学 1章 材料とその再利用	・身の回りで使われる金属、プラスチック、セラミックスといった素材の特徴について理解する。 ・物質は原子でできていることを認識し、各素材と原子の関係を理解する ・金属の製錬、特徴的な反応について理解する。 ・プラスチックの製法や種類、その特徴について理解する ・プラスチックの問題点、改善策について理解する ・セラミックスの特徴、今後期待される性質などについて理解する	
	5			中間考査
	6			
	7			期末考査 課題学習
第 2 学期	9	1編 生命の科学 2章 ヒトの生命現象	・生命がもつ特徴としての目について理解する ・目の見え方の特徴を理解し、それを利用した事象について興味を持つ ・血糖のはたらきを理解し、高血糖による糖尿病のしくみや害について理解を深める ・生物のもつ免疫について理解し、免疫にまつわる現象に興味を持つ ・遺伝としてのDNAの仕組みを理解し、タンパク質が合成される過程に理解を深める	夏季課題提出
	10			中間考査
	11	3編 光や熱の科学 2章 熱の性質とその利用	・温度の単位や熱の伝わり方の違いを理解する ・熱量の考え方を理解し、熱量を求める計算を身につける ・熱からエネルギー全体に視野を広げ、エネルギーにまつわる計算能力を身につける ・仕事の考え方を理解し、エネルギーとの関係性を見出す ・世の中に存在するエネルギーの種類について理解する ・エネルギー同士の移り変わりについて理解し、効率の良いエネルギー利用について考えを深める	期末考査 課題学習
	12			
第 3 学期	1	4編 宇宙や地球の科学 2章 自然景観と自然災害	・身近な地形がどのような力によって生じるのかを理解する ・地形を形成する地球のはたらきや構造について理解を深める ・地震や火山といった地球の活動について理解する ・地球の活動によって引き起こされるさまざまな災害について理解し、災害に対処するための最新技術や取り組みについて考える	冬季課題提出
	2			学年末考査
	3			

教科名	保 健 体 育		科目名	体 育		必修			
科 別	商 業	科	学 年	1 年	コース名	全	コース	3 単位	文理共通

教科書（発行所）新高等保健体育(大修館)

副教材（発行所）

学 習 目 標		心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を主体的かつ共同的な学びを通して身につける。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	知識は各種目のルール、用具の名前、安全に配慮した実施方法等の理解をしているかをICTを活用し評価する。技能は実技テストで評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた知識や技能を効率よく活用し、自分の考えを説明(表現)することができるかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、各自の体力に合わせた課題設定を行い、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
留 意 事 項		・服装は学校指定の体操着を着用する(見学者も同様)。 ・授業はチャイムと同時に開始することを原則とするので、活動場所への移動は休み時間内に完了しておく。 ・貴重品の管理をしっかりと行う。 ・体調管理は各自の責任で行い、事故・怪我が起こらないよう場所の確保、運動器具の整備に努め、安全に留意する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学期	4	・体づくり運動 ・陸上競技	・新体力テストに関わる技能を高め、測定する。 ・足の地面への押しや上半身のひねり戻しを使って、ハンドボールを遠くに投げることができる。 ・自分なりのペース・走り方を習得し、健康保持増進・体力向上を図ることを目標とし、20mシャトルランを行う。 ・クラウチングスタートから力強く加速し、高いスピードを維持して50m走を行う。	
	5	・体づくり運動 ・体育理論	・スクワットを安全に行うことができる。 ・ベンチプレス、スクワット、デッドリフトからなるbig3で自己の限界に挑戦する。 ・デッドリフトを安全に行うことができる。 ・スポーツの発祥と成立 ・スポーツ文化の発展と現代社会	
	6			
	7			
第 2 学期	9	・種目練習	・自己観察や他者観察をし、課題を見つけて改善することができる。 ・クラスの輪を重んじ、競技力向上に努める。	
	10	・武道(剣道) ・体育理論	・素振りと自重トレーニングを組み合わせ、筋力と心肺能力をバランスよく高めることができる。 ・正面素振り、早素振りを正しく行える。 ・剣道における礼法を理解し、実施することができる。 ・オリンピック・パラリンピックと国際社会 ・スポーツの経済効果とスポーツ産業 ・スポーツに求められる高潔さ	
	11			
	12			
第 3 学期	1	・球技 【バスケットボール】 A) 用具の扱い B)ドリブル・パス・シュートなどの基本技術 C)基本技術を用いた複合練習 D)対人練習 E)ルールを知る F)ゲーム(戦術練習)	・ゴールリングやボールを正しく操作でき、基本技術を正しく身につけられる。 ・複合練習の中でより実践に近い技能を身に付けられるとともに、他者との関わり(コミュニケーション能力)や空間能力を養うことができる。 ・対人練習の中で、攻防の楽しさ・工夫を味わい、戦術を考える思考力を養うことができる。 ・ルールを知り、知識を深める。 ・ゲームを通じ、勝敗を競ったり、チームの課題を解決するなどの楽しさや喜びを味わうことができる。 ・チーム内での役割に応じた技能を発揮することができる。 ・リーグ戦の中で、審判や運営等を主体的に取り組むことができる。 ・持続可能性からみたスポーツと環境	
	2			
	3	・体育理論		

教科名	保 健 体 育		科目名	体 育		必修				
科 別	商 業	科	学 年	1 年	コース名	全	コース	3	単位	文理共通

教 科 書（発行所）	新高等保健体育(大修館)
------------	--------------

副 教 材（発行所）	
------------	--

学 習 目 標	心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を主体的かつ共同的な学びを通して身につける。
観 点	知識は各種目のルール、用具の名前、安全に配慮した実施方法等の理解をしているかをICTを活用し評価する。技能は実技テストで評価する。
別 評 価	身に付けた知識や技能を効率よく活用し、自分の考えを説明（表現）することができるかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
留 意 事 項	主体的に学習に取り組む態度 自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、各自の体力に合わせた課題設定を行い、評価（自己評価）・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
留 意 事 項	・服装は学校指定の体操着を着用する（見学者も同様）。 ・授業はチャイムと同時に開始することを原則とするので、活動場所への移動は休み時間内に完了しておく。 ・貴重品の管理をしっかりと行う。 ・体調管理は各自の責任で行い、事故・怪我が起こらないよう場所の確保、運動器具の整備に努め、安全に留意する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学期	4	・体づくり運動 ・陸上競技	・新体力テストに関わる技能を高め、測定する。 ・足の地面への押しや上半身のひねり戻しを使って、ハンドボールを遠くに投げることができる。 ・自分なりのペース・走り方を習得し、健康保持増進・体力向上を図ることを目標とし、20mシャトルランを行う。 ・クラウチングスタートから力強く加速し、高いスピードを維持して50m走を行う。	
	5	・球技 【ソフトボール】 A) 用具の扱い B) 基本技術 スイング スローイング キャッチング D)ピッチング練習 E)ゲーム形式練習（ルールの理解）	・基本技術を正しく身につける。 ・ベースボール型球技における攻防の楽しさを味わい、戦術を考える思考力を養うことができる。 ・ルールを知り、知識を深める。 ・ゲームを通じ、勝敗を競ったり、チームの課題を解決するなどの楽しさや喜びを味わうことができる。 ・パートナーと役割に応じた技能を発揮することができる。 ・ゲーム練習の中で、審判や運営等を主体的に取り組むことができる。	
	6		・スポーツの発祥と成立 ・スポーツ文化の発展と現代社会	
	7	・体育理論		
第 2 学期	9	・種目練習	・自己観察や他者観察をし、課題を見つけて改善することができる。 ・クラスの輪を重んじ、競技力向上に努める。	
	10	・体づくり運動 ・器械運動（マット） ・体育理論	・ダイナミックストレッチや運動解剖学的に正しいストレッチを通してしなやかな身体をつくることができる。 ・回転系、巧技系の基本的な技に加え、条件を変えた技、発展技に取り組む。 ・技術の上達過程と練習の考え方、効果的な動きのメカニズム ・オリンピック・パラリンピックと国際社会	
	11	・球技 【サッカー】 A) 用具の扱い B)ドリブル・パス・シュートなどの基本技術 C)基本技術を用いた複合練習 D)対人練習 E)ルールを知る F)ゲーム(戦術練習)	・ボールを持たない時の動きを考え、空間に走りこんでパスをもらうことができるようにする。 ・パス&コントロール 動きながらボールを受け、動きながらパスをできるようにする。 ・ポジションと特性を理解し、作戦を考える。 ・ゲーム形式によるボール操作と空間に走りこむ動き。 ・安定したボール操作、力強いシュート、チーム戦術、審判法や試合運営。 ・スポーツ推進のための施策と課題 ・スポーツで「未来」を創る	
	12			
第 3 学期	1	・陸上競技 【走り高跳び】 A)はさみ跳び・ベリーロールの技能の習得 B)記録計測・フォームの実技テスト	・2種類の跳び方について、助走方法や空中姿勢、着地について正しく身につけることができる。 ・自己観察・他者観察をし、課題を見つけて改善することができる。 ・記録計測において、自己の力を最大限発揮するとともに安全に留意し、スムーズに運営できるよう主体的に取り組む。	
	2	・体育理論	・持続可能性からみたスポーツと環境	
	3			

教科名	芸 術	科目名	音 楽 I	必修					
科 別	普通・商業	科 学 年	1 年	コース名	全	コース	2	単位	文 理 共 通
教 科 書（発行所）	音楽 I Tutti+ トウッティプラス（教育出版）								
副 教 材（発行所）									

学 習 目 標		音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成し、心のゆとりと豊かな情操を養うことを目指す。
観 点	知 識 ・ 技 能	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
	別 思考・判断・表現	・音楽を形づくっている要素や関連性を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。
評 価	主体的に学習に取り組む態度	・主体的・協働的に歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
留 意 事 項		・プリント保管用のファイルを用意すること。 ・観点別評価については、学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学期	4	・中学校までの復習テスト・教科ガイダンス ・楽器学 ・歌唱1 ・歌唱2	・中学校までの学習内容確認。年間計画、評価方法等について説明。 ・オーケストラの楽器紹介。 ・校歌を覚える。素直な発声を心掛ける。 ・日本語の歌を取り上げ、曲想の理解と個性豊かな表現を目指す。	
	5	・歌唱2 ・鑑賞、音楽史 ・楽典1 ・実技テスト(歌唱)	・日本人作曲家の紹介。 ・近代・現代音楽 ・反復記号 ・暗譜で一人ずつ実施。音楽的な評価より、自己表現力を重視する。	映像による鑑賞
	6	・楽典2、3 ・ミュージカルの世界 ・ボディーパーカッション	・音名(日本・イタリア・ドイツ)、調号 ・ミュージカルの歴史を学ぶ。主要な作品を鑑賞し面白さを感じ取る。 ・音楽を形作っている要素を知覚し、演奏法の特徴を生かした音楽表現を工夫しながら楽曲の練習をする。	映像による鑑賞
	7	・ボディーパーカッション ・楽典4 ・1学期の復習、小テスト	・音符の計算 ・楽典、音楽史の理解力を図る。	
第 2 学期	9	・実技テスト(ボディーパーカッション) ・楽典5 ・歌唱(イタリア歌曲、ドイツリート)	・各ペアで楽曲に適したパフォーマンスを取り入れ発表する。 ・リズム譜 ・イタリアカンツォーネ、ドイツリートについて解説。イタリア語、ドイツ語の発音に注意し、歌詞、曲想を生かした表現を目指す。	
	10	・実技テスト(歌唱) ・鑑賞、音楽史 ・楽典5 ・箏曲	・一人ずつ実施。音楽的な評価より、自己表現力を重視する。 ・ロマン派の音楽 ・関係調 ・箏と琴の基礎知識。	映像による鑑賞
	11	・箏曲 ・実技テスト(箏曲) ・鑑賞、音楽史 ・楽典6	・箏の練習(荒城の月)、楽譜の読み方、奏法を覚える。 ・一人ずつ伴奏に合わせて実施。 ・中世、ルネサンス、バロック、古典派の音楽 ・音程	映像による鑑賞
	12	・バレエの世界 ・2学期の復習、小テスト	・バレエの歴史を学ぶと共に主要な作品を鑑賞し、面白さを感じ取る。 ・楽典、音楽史の理解力を図る。	映像による鑑賞
第 3 学期	1	・創作	・二部形式の歌を作曲	作品提出
	2	・実技テスト(歌唱) ・鑑賞	・自由曲。曲想を歌詞の内容とかかわらせて、イメージを持って音楽を表現する。一人ずつ実施。 ・民族音楽(アフリカ・アジアの音楽)	映像による鑑賞
	3	・オペラの世界	・オペラの歴史を学ぶと共に一つの作品のハイライトを鑑賞し、面白さを感じ取る。	映像による鑑賞

教科名	芸	術	科目名	書	道	I	必修				
科 別	普通・商業	科	学 年	1	年	コース名	全	コース	2	単位	文 理 共 通
教 科 書（発行所）		書道 I (光村図書)									
副 教 材（発行所）											

学 習 目 標		書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。
	思考・判断・表現	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。
留 意 事 項		観点別評価については、学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学期	4	一 オリエンテーション 書道で学習すること 書写から書道へ	書道の学習を始めるにあたり、書の特徴や学習の全体像を把握します。 用具・用材について理解し、姿勢や執筆法・用筆法について知り、書道の学習における基本的な事項を理解します。	芸術科書道と国語科書写の関連を確認します。
	5	二 漢字の書(文字の造形を学ぶ楷書) 1 書体の変遷 2 唐の四大家(九成宮醴泉銘・孔子廟堂碑)	漢字の書の学習を進めるにあたり、書体の変遷や拓本についての理解を図ります。また、代表的な楷書古典を鑑賞し、作者や時代背景などの基礎的な知的理解を図ります。	世界史の学習に関連します。
	6	2 唐の四大家(雁塔聖教序・顔氏家廟碑) 3 北魏の書(牛橛造像記)	漢字の楷書の古典に基づく学習により、書の多様な表現の可能性にふれます。 各古典を字形の特徴と用筆・運筆との関わりから捉え、臨書活動をととして、意図に基づいて表現するための基礎的な技能を身につけます。	各自の個性を生かすことのできる古典を選択して集中的に学習します。
	7	三 漢字の書(文字の造形を学ぶ行書) 1 蘭亭序(神龍半印本)	さまざまな行書古典を鑑賞し、行書の特徴について理解します。 代表的な行書の古典について、字形の特徴と用筆・運筆との関わりから捉え、臨書活動をととして、意図に基づいて表現するための基礎的な技能を身につけます。	実用性と芸術性という行書の二つの側面を理解します。
第 2 学期	9	2 風信帖 3 三筆・三蹟の書	代表的な行書の古典について、字形の特徴と用筆・運筆との関わりから捉え、臨書活動をととして、意図に基づいて表現するための基礎的な技能を身につけます。	日本史の学習に関連します。
	10	四 漢字の書(文字の造形を学ぶ草書/隷書/篆書) 1 真草千字文 2 曹全碑	書体の変遷を基盤に各書体の関りを踏まえ、草書と隷書、篆書について時代背景を中心に古典の理解を図ります。 各書体の基礎的な用筆・線質・字形及び構成を学び、書体の変遷への理解を深めます。	世界史の学習に関連します。
	11	五 仮名の書 1 仮名の成立と種類	漢字の源である篆書の成立過程を学ぶことで篆書体への理解を深め、現代と古代の文字の違いを考察することで漢字への理解を深めます。 わが国の伝統的な仮名文字を理解するにあたり、漢字の書との違いや関係性の理解を図ります。	漢字の草書体から平仮名への発展は国語・日本史の学習に関連します。
	12	六 仮名の書(文字の造形を学ぶ) 1 平仮名・変体仮名 2 蓬萊切	平仮名の単体、変体仮名、連綿の筆使いに慣れ、基本的な用筆法を習得します。 仮名の古筆を学び、現代にも残り続ける日本の文字美について理解を深めます。	漢字の草書体から平仮名への発展は国語・日本史の学習に関連します。
第 3 学期	1	3 高野切第三種	上代様の仮名の鑑賞をととして、そのよさや美しさを感じ取り、書風を直感的に捉え、作品の価値やその根拠について考えます。また、臨書活動をととして、筆使いに慣れ、基礎的な表現の技能を身につけます。	仮名独自の美しさを感じ取ります。
	2	七 仮名の書(構成を学ぶ) 1 三色紙(寸松庵色紙・升色紙・継色紙)	上代様の仮名の鑑賞をととして、そのよさや美しさを感じ取り、紙面構成の美を学ぶ。また、日本文化における「間」の美意識について理解を図ります。	仮名独自の美しさを感じ取ります。
	3	八 1年間を振り返って(まとめ)	1年間を通して学んだ書体の変遷や日本の文字美を総まとめし、書道という科目から世界史や日本史、古典に繋がる知識を深めます。	国語科や世界史、日本史の学習に関連します。

教科名	外国語	科目名	英語コミュニケーション I	必修
科別	商業	科	学年	1 年
		コース名		コース
			4	単位
教科書（発行所）	All Aboard! English Communication I（東京書籍）			
副教材（発行所）	総合英語FACTBOOK English Grammar Core NEW EDITION(桐原書店)			

学 習 目 標		必要な情報を聞き取り、または読み取り、話し手や書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えあったり、文章を書いて伝えることができる。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	各Lessonで履修する文法事項を理解し、それを活用できる技能を身につけることができたかを、小テストや定期考査等で評価する。
	思考・判断・表現	各Lessonに扱われている文章について内容を味わい、テーマにそって自分の考えを加えて論じることができるか。また、その際に学べたスキルを他の文に活用をすることができるかを小テストや定期考査等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	授業中の言語活動への積極的な取り組みや姿勢や、課題への取り組み状況で評価する。
留 意 事 項		単元別的小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学期	4	Lesson1 Breakfast around the World 私の朝ごはん	世界の朝食を紹介するスピーチを通して、その特徴や相違を学習する 過去形	準備課題提出
	5	Lesson2 Australia's Cute Quokkas 人なつこい野生動物	オーストラリアの珍しい野生動物クオッカと観光のルールについて学習 進行形: (be動詞＋動詞の-ing形)	中間考査
	6	Lesson3 A Train Driver in Sanriku 笑顔を運ぶ列車	被災地を運行する列車運転士のスピーチを通して、職業の意義について考える 助動詞: can, will	
	7	Lesson4 A Miracle Mirror 夢のような絶景	海外の観光地について書かれたメールを通して、その魅力について学習する To不定詞: (to＋動詞の原形)	期末考査
第 2 学期	9	Lesson5 Learning from the Sea 長浜高校水族館部	高校のユニークな部活動を通して、今好きなことと将来の夢について考える 動名詞: (動詞の-ing形)	夏季課題提出
	10	Lesson6 A Funny Picture from the Edo Period 奇想天外な浮世絵師	江戸時代の浮世絵師、歌川国芳についてのスピーチを通して浮世絵と現代マンガの関連性について考える 受け身: (be動詞＋過去分詞)	中間考査
	11	Lesson7 A Diary of Hope アンネ・フランク	アンネ・フランクの生活と日記について紹介する授業を通して、生きることの意味について考える 比較表現: (-er) (the -est) (as＋原級＋as)	
	12	Lesson8 A Door to a New Life ロボットカフェ	ロボットカフェを紹介する実況中継を通して、ロボットの可能性について考える 現在完了形: (have[has]＋過去分詞)	期末考査
第 3 学期	1	Lesson9 Fighting Plastic Pollution 海の豊かさを守る	プラスチックごみによる環境汚染と戦うインドネシアの姉妹の活動を学習する 名詞を後ろから説明する分詞	冬季課題提出
	2	Lesson10 Pigs from across the Sea 海の向こうからの贈り物	第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイ在住の沖縄出身日系アメリカ人からの援助や、両地域の現在の交流について学習する 関係代名詞: who, which	学年末考査
	3	総復習	1年間で学んだ表現や文法の復習を行う	春季課題の提示

教科名	商業科	科目名	簿記	必修					
科別	商業	科 学 年	1 年	コース名	全	コース	6	単位	
教科書（発行所）	新簿記(実教出版)								
副教材（発行所）	最新段階式簿記検定問題集全商2.3級(実教出版)全商簿記実務検定模擬問題集2級(実教出版)、全経簿記検定試験PAST								

学 習 目 標		(1)企業における取引の記録・計算・整理に関する知識と技術を習得させ、簿記の基本的な仕組みについて理解させるとともにビジネスの諸活動を計数的に把握する能力と態度を育てる。 (2)全国検定3級の取得を目指す。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	各単元ごとに小テストを実施。校内検定及び全国検定の取得状況で判断する。
	思考・判断・表現	一連の簿記の流れ(取引～決算まで)理解したうえで、校内検定及び全国検定に向けて課題(夏季・冬期)や宿題を実施することが出来たか。
	主体的に学習に取り組む態度	授業への出席状況及び授業中の取り組む姿勢・態度ではどうか。意欲的に学習し検定受験に取り組むことが出来たか。
留 意 事 項		校内検定の日程、範囲など詳細は後日、授業担当教員より連絡する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第1学期	4	1. 簿記の基礎 2. 資産・負債・純資産と貸借対照表 3. 収益費用と損益計算書 4. 取引と勘定	・簿記の目的、種類など明らかにする。 ・簿記の5要素を理解させ、貸借対照表と損益計算書を作成する。 ・勘定記入のルールを身に付ける。	
	5	5. 仕訳と転記 6. 仕訳帳と総勘定元帳 7. 試算表 8. 精算表	・取引を仕訳をし、総勘定元帳の作成する。 ・試算表の作成方法を身に付ける。 ・試算表から精算表の作成をする。	
	6	9. 決算 10. 現金・預金の取引 11. 商品売買取引 12. 掛け取りき	・決算とは何かを学び、一連の手続きを学習する。 ・現金預金を理解し、小口現金出納帳の作成を学ぶ。 ・3分法の取引を学習し、掛け取りき及び返品取引について学ぶ。	
	7	13. 手形の取引 14. その他の債権債務 15. 固定資産の取引	・手形の種類と仕訳の仕方について学ぶ。 ・固定資産とは何かについて学習し、取得と売却の取引を学ぶ。	全経3級
第2学期	9	取引の記帳1.2 決算整理	現金・当座預金・小口現金・仕入と売上・商品有高帳・売掛金と買掛金 受取手形・支払手形・手形貸付借入金・手形の書き換え・不渡手形 有価証券・個人企業など	
	10	決算のまとめ 伝票	現金過不足・当座借越・費用収益の見越し繰り延べ・有価証券の評価 減価償却 精算表など	
	11	その他の取引 株式会社の記帳	本支店間の取引・支店相互間の取引・ 仕訳集計表作成 株式会社の設立・開業・株式の発行 剰余金の処分・税金	校内検定 全経3級
	12	全商2級検定対策	全商簿記実務検定2級模擬問題	校内検定
第3学期	1	全商2級検定対策	全商簿記実務検定2級模擬問題	全商2級
	2	全経2級対策	全経簿記能力検定2級対策	全経2級
	3	まとめと反省	・1年間のまとめをする。	

教科名	商 業		科目名	情 報 処 理			必 修		
科 別	商 業		科 学 年	1	年	コース名	コース	4	単位
教 科 書（発行所）			情報処理 Prologue of Computer(実教出版)						
副 教 材（発行所）			全商情報処理検定模擬試験問題集3級(実教出版)、全商ビジネス文書実務検定3級(実教出版)						

学 習 目 標		(1)企業において情報を扱うことについて、情報の意義や役割について理解する。 (2)情報を収集・処理・分析し、表現する知識と技術を習得する。 (3)ビジネス文書の役割や構成について理解し、ビジネス文書を適切に作成する能力を身に付ける。
観 点 別 評 価	知 識・技 能	情報についての基礎的な知識、WordやExcel等各ソフトウェアにおける基本的な技能等について理解できているか、校内検定、全国検定(全商情報処理検定3級、ビジネス文書実務検定3級)等で評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた情報処理に関する知識や技能を効率よく活用し、校内、全国検定に取り組むことが出来たのか、校内検定、全国検定および確認テスト等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら積極的に校内、全国検定合格へ向けて取り組むことが出来たのか、学習への振り返りや課題等を通して評価する。
留 意 事 項		校内検定の実施については、内容等、教科担当者から連絡する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学期	4	第1章 企業活動と情報処理 1節 情報処理の重要性 2節 情報モラルと法規 3節 コミュニケーションと情報デザイン	情報の意義と役割 情報社会の価値とモラル 情報社会と法規 情報デザインの重要性、影響と効果	
	5	第2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク 1節 コンピュータシステムの概要 2節 情報通信ネットワークのしくみと構成 3節 インターネットの活用	ハードウェア、ソフトウェア 情報通信ネットワークの役割と構成 Webページの検索と活用	
	6	第2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク4節 情報セキュリティの確保 第3章 情報の集計と分析 1節 ビジネスと統計	セキュリティ管理の重要性 表計算ソフトの活用、統計の基礎 データの入力と計算式の設定	
	7	第3章 情報の集計と分析 2節 関数を利用した表の作成 3節 グラフの作成	基本的な関数(SUM,AVERAGE,MAX,MIN等) グラフの種類と概要 基本的なグラフの作成	全商ビジネス文書実務検定(速度部門3級)
第 2 学期	9	全商情報処理検定模擬試験問題集3級	模擬試験問題集の実技問題や模擬試験問題を中心に検定試験対策(全商情報処理検定3級) 筆記、実技ともに実践問題を通し、知識とスキルの習得を図る。	全商情報処理検定(3級)
	10	第4章 ビジネス文書の作成 1節 ビジネス文書と表現 2節 基本文書の作成	ビジネス文書の役割と構成 ワープロの操作と入力方法 ワープロを利用した文書の作成 社外文書、社内文書	校内検定
	11	全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集基礎から3級	模擬試験問題集の実技問題や模擬試験問題を中心に検定試験対策(全商ビジネス文書実務検定3級) 筆記、実技ともに実践問題を通し、知識とスキルの習得を図る。	全商ビジネス文書実務検定(3級)
	12	全商情報処理検定模擬試験問題集3級	模擬試験問題集の実技問題や模擬試験問題を中心に検定試験対策(全商情報処理検定3級) 筆記、実技ともに実践問題を通し、知識とスキルの習得を図る。	校内検定
第 3 学期	1	全商情報処理検定模擬試験問題集3級	模擬試験問題集の実技問題や模擬試験問題を中心に検定試験対策(全商情報処理検定3級) 筆記、実技ともに実践問題を通し、知識とスキルの習得を図る。	全商情報処理検定(3級 9月末取得者)
	2	第3章 情報の集計と分析 2節 関数を利用した表の作成 3節 グラフの作成	基本的な関数(VLOOKUP、HLOOKUP等) 応用的なグラフの作成	
	3	1年間のまとめ	1年間で習った内容について確認し、次年度の上位級合格に向けて繋げていく。	